

事業 No. 1-16 加藤敏弘研究室ゼミ合宿報告書

実施期間：2025 年 9 月 8 日（月）～9 月 10 日（水）

実施場所：太子町営研修センター

参加者：学生・院生 10 名（男 6 名、女 4 名）、教員 1 名

目的：4 年生は卒業研究の中間報告会に向け、各自のテーマの進捗状況を確認し、今後の進め方について話し合いを繰り返す。3 年生は卒業研究のテーマを決定するための話し合いを繰り返し、大学院生と 4 年生からアドバイスをもらいながら、メンバー相互の協力関係を構築する。

日程：

9/8（月）

13:30 集合
14:00～18:40 個人面談（談話室）、作業（研修室）
19:00～19:40 夕食（食堂）
19:40～21:00 個人面談（散歩・食堂）
21:00～23:00 交流会
23:00 就寝



9/9（火）

6:00 起床
6:30～ 7:00 散歩
7:10～ 7:50 朝食（食堂）
8:00～12:40 個人面談（研修室）、作業（談話室）
12:40～14:00 昼食（おやきの学校）
15:00～19:20 個人面談（ロビー）、作業（食堂）
19:20～21:00 夕食（バーベキュー）
21:00～21:30 ウクライナ交流会（食堂）
23:00 就寝



9/10（水）

6:00 起床
6:30～ 7:00 散歩
7:00～ 7:45 朝食
7:45～13:15 個人面談（ロビー）、共同作業（食堂）
13:30 解散



学生の感想

- ・夏季休暇中は 1 人で作業していた分、合宿では先生や他のゼミ生と進捗や悩みを共有することができ、凝り固まっていた思考を見直す良い機会だった。
- ・合宿だからこそ卒論のことだけを深く考えることができ、先生との面談やゼミ生との対話を通して、自らの思考を捉え直すことができた。
- ・普段は集散的に卒論について考えることがなかったが、二泊三日の合宿を通じて卒論の動機から練り直すことができた。普段あまり話すことのない他学年のゼミ生と交流する機会にもなった。
- ・自身の研究についての整理ができ、とても良い時間となった。また、ゼミ生の卒論に向けて考えることを聞きアドバイスを行った。ゼミ生全員で卒論を仕上げられるよう今後も協力し合って頑張っていきたい。
- ・先生や先輩方と会話することによって卒論テーマづくりのヒントを得ることができた。自分の疑問をぶつけることで考えを深めることができた。
- ・合宿前と合宿後では自分の卒論に対する考え方が変化した。自分一人で考える時間がどうしても多くなってしま

うが、先生やゼミ生に相談する中で自分が抱えていたもやもやが解消され、有難い機会だった。

- ・普段はひとりで卒業論文の構想に取り組んでいたが、先生との面談やゼミ生との会話からアドバイスをいただいて自分に不足していることを明らかにすることができた。
- ・先生との面談では研究に対する動機を見つめなおし、テーマを改めて整理することができた。前期は他のゼミ生と交流する時間があまりなかったのでもいい機会となった。
- ・今回のゼミ合宿では自分の整理できていない部分がしっかりと整理できよかった。また、卒論についての考え方もクリアになった部分が多くなった。